

農作業は安全に行いましょう

今年、本県では農作業中の死亡事故が既に4件発生しており、すべてが65歳以上の高齢者によるものです。

県では、農業機械の利用頻度が高まると予想される6月と10月を重点期間とし、「農作業安全推進月間」を設定して、農業者の安全意識の啓発を図っています。

「農作業は焦らず、急がず、慎重に！」を合い言葉に、農作業事故には注意してください。

- 作業時はキチンとした服装をする。
- ヘルメット、防護めがね等、安全装備を身につける。
- ほ場の出入り、あぜ越えに注意する。
- 移動走行時には、人や車に注意する。
- 点検・整備はエンジンを停止する。
- 取扱説明書・安全ラベルを理解する。
- 棚・支柱・針金等は目印等で目立たせる。
- できる限り一人での作業は行わない。

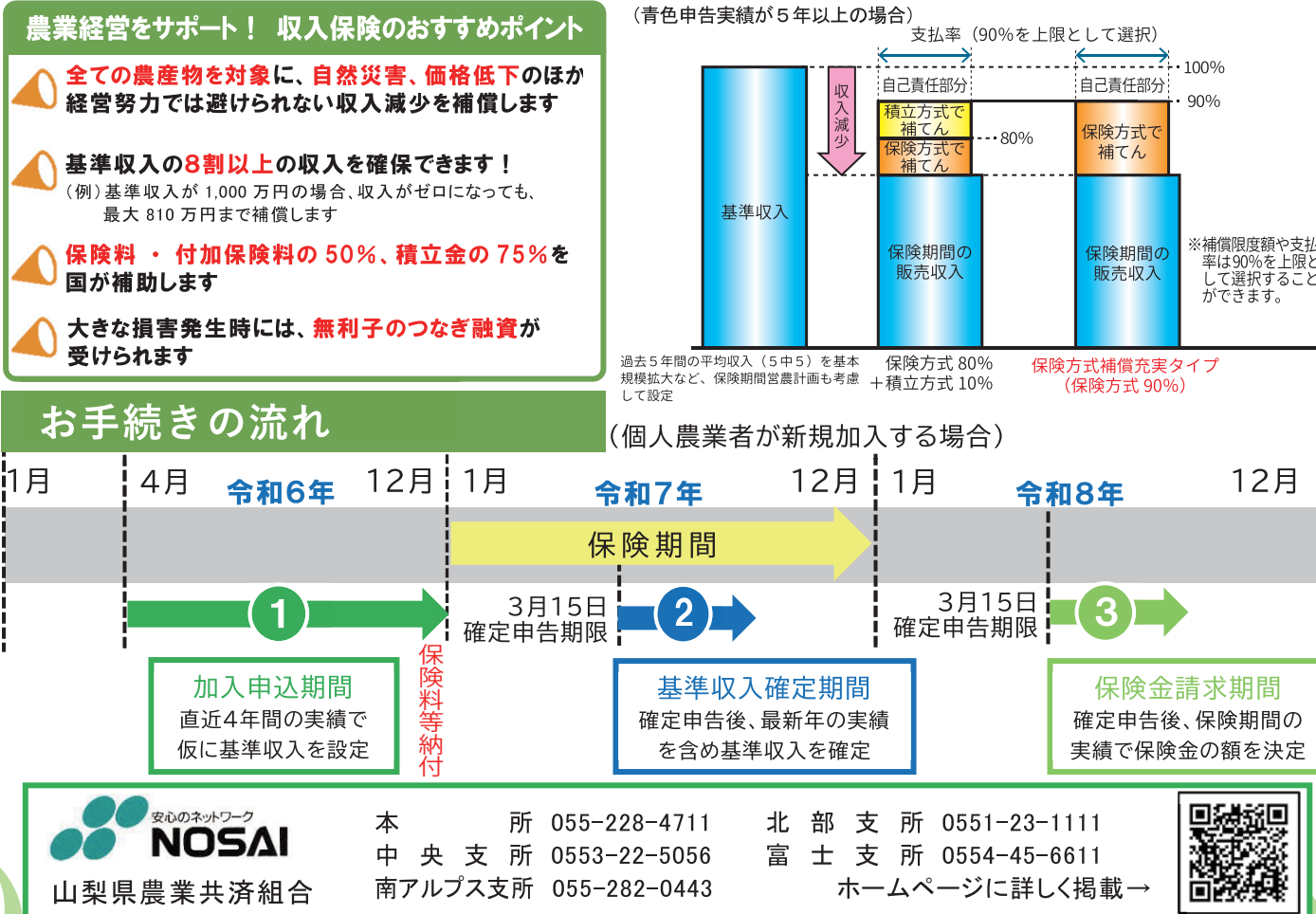


備えあれば憂いなし!

農業経営の安定・継続に向けて、自然災害や価格下落などの様々なリスクに備えましょう。

盗難やけがによる収入減少なども補償の対象になります。

令和7年の補償分については、令和6年12月までが加入申込期間となっています。



山梨県普及センターだより

編集 & 発行：山梨県農政部農業技術課

〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL: 055-223-1619 FAX: 055-223-1622

http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/

E-mail: nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No. 59

令和6年9月27日発行

オリジナル品種「サンシャインレッド」の普及に向けて

農業革新支援スタッフ【果樹】

「サンシャインレッド」は、令和2年から苗木の供給が開始され、今年から本格出荷となります。

今年度も品質向上を図るため、果樹担当普及指導員とJA営農指導員（合計で約90名）を対象に、房づくり、ジベレリン処理などの開花期前後の管理（5月）、摘粒・摘房・着色管理（6月）、着色期の管理と着色状況の確認（7、8月）について研修会を開催し、各時期における技術の統一化を図りました。

今年から、出荷資材が新たにつくられ、ハウスものが6月20日、露地ものが7月24日から出荷が始まっています。華やかな香りが特徴で食味も良好なことから、市場でも高い評価を得ており、大きな期待が寄せられています。

県産ブドウの柱のひとつとして定着するよう、今後も高品質な果実の安定生産に向けた栽培技術の普及に取り組んでいきます。



研修会の様子



県産花きの認知度向上に向けた取り組み

農業革新支援スタッフ【花き】

山梨県の花きは、日本一の日照時間や生産者のたゆまぬ努力により品質は高く、全国規模の品評会においても数多く上位入賞しています。

一方で、各種資材や光熱費の高騰が収益を圧迫しており、各生産者は、より売れる商材を日々模索し経営に取り入れているところだ。

農業革新支援センターでは、9月に、県販売・輸出支援課と連携し、生産者が手掛ける新商材を集め、大田市場で毎年開催される「JFI トレードフェア in FAJ」に生産者に代わって出展し、売り込みを行います。フェアでは、バイヤーの目にとまり販売に結びつく商材もありますし、厳しい意見も含め様々な評価をいただけるので、出展者に対して情報提供いたします。

昨年は、有意義な情報や評価が得られたことから、本年度についても出店を計画しています。



「JFI トレードフェア 2023 秋 in FAJ」にて（全130ブース）（洋蘭、観葉植物、多肉植物、香るシクラメン、県オリジナル花きなどを展示）

中北地域普及センター

データ・スマート農業（施設野菜）の取り組み支援

施設野菜栽培では、新たな病害虫の発生や、猛暑等の異常気象などに起因する生産性の低下、生産資材費や流通コストの増加など経営を取り巻く環境は厳しさを増しています。

そこで、当普及センターでは、施設野菜農家の収益の確保及び向上に向け、データ農業やスマート農業などの新技術の取り組みを支援しています。

管内の施設キュウリ及び施設イチゴ農家では、温湿度・炭酸ガス濃度の測定機器を導入し、スマートフォン等でハウス内の状況を確認しながら、複合環境制御システムで作物の生育にとって最適な環境を整える取り組みを行っています。

今後も関係機関と連携し、ハウス内環境のモニタリング結果と品質、収量の関係性を分析し、施設野菜の高品質及び高収量生産に向けた栽培方法の指導・支援を行っています。



ハウス内環境制御の設定の様子



関係機関との現地検討の様子

峡東地域普及センター

新規就農者に向けた「果樹技術向上セミナー」の開催

普及センターでは、就農して2年目以内の栽培経験の浅い農業者を対象に「果樹技術向上セミナー」を開催しています。

本セミナーは、モモコース、ブドウコースの2コースがあり、モモの摘果やブドウの房づくり、摘粒、剪定などの年間を通した栽培講習会を、現地園場にて年間11回程度実施していきます。講習会では、専門用語や作業のポイントなどの基礎的な説明から始まり、その後少人数のグループに分かれての実習を行うことで、きめ細かな指導に繋がっています。

また、各作業だけでなく、栽培に必要な土作りや病害虫防除などの講義、経営計画の立て方や制度資金の紹介など、座学での講習会も取り入れています。

今後も本セミナーなどの講習会を通して、峡東地域の果樹産地を支える担い手を育て、支援していきます。



写真：ブドウの房づくり講習会・モモの摘果講習会

峡南地域普及センター

地域特産農産物を活用した加工品開発の支援について

峡南地域では、スイートコーンやキウイフルーツ、大塚にんじん、あけぼの大豆、お茶など、地域の気候や風土を生かした特徴的な農産物が数多く栽培されています。

そこで、普及センターでは、規格外などの出荷に適さない未利用農産物等を活用したい農家と、加工品開発に取り組みたい福祉施設とのマッチングの支援を行い、農福連携6次産業化アドバイザーからの助言を受けながら、加工に適した農産物の選定や試作品づくりを重ね、合計6種類の新商品が完成しました。

今後も、未利用農産物の活用支援と加工品開発に向けた取り組みを支援していきます。



加工に適した農産物の選定
(ドライフルーツに加工)



試作品づくり打合せの様子



完成した新商品
(フルーツグラノーラ、フレーバーティー他)

富士・東部地域普及センター

談合坂SAやさい村での出荷拡大に向けた取り組み支援について

中央自動車道上り線の談合坂SAにある農産物直売所「談合坂SAやさい村（上野原市）」は、首都圏に近いという立地条件の良さから、年間を通じて多くの観光客が訪れます。特にゴールデンウィークは多くの観光客で賑わいますが、この時期は農産物の出荷が少なく、品目の偏りも見られます。

そこで、普及センターでは出荷拡大と販売額の向上を図るために、生産者の高齢化や露地栽培が大半であることなども考慮し、「春どりレタス」を推進しています。



収穫調査の様子



試食検討の様子

「談合坂SAやさい村」では、5月に上野原市役所にて作型・品種比較検討会を開催し、収穫調査や品種毎の試食を行い、栽培体系や品種の特徴について生産者と情報共有を行いました。また、8月の運営委員会では、レタスの後に切れ目なく出荷できる品目としてパプリカやブロッコリーを提案し、実証ほを設置して取り組んでいくことなどが話し合われました。

今後も需要に合わせた新品目や新作型の導入を支援し、直売所の品揃え充実や魅力向上に向けて取り組んでいきます。